

## 今月の情勢 ~経済・金融の動向~

### 原油市況

原油価格（WTI 期近・終値）は、産油国側の生産枠削減にもかかわらず、世界的な景気悪化に伴う需要減退観測の強まりから下落基調が続き、08年12月22日には1バレル=31ドル台と03年12月以来となる安値に突入した。年明け直後には中東情勢の悪化を受け一旦は48ドル台まで上昇したものの、直近では再び需要減退への思惑から40ドル台を割って推移している。

### 米国経済

米国では、住宅市場の調整が続くなか、生産や雇用が大幅に減少し、消費の低迷も続いている。こうしたなか、オバマ大統領の掲げる景気対策法案（総額約7800億ドル=約72兆円）が2月17日に成立。翌18日には包括的な住宅対策が発表された。米連邦準備制度理事会（FRB）は、08年12月のFOMCで政策金利の政策金利を史上最低の0~0.25%とし、ゼロ金利政策を容認する政策を取っている。なお、次回FOMCは3月17~18日に開催される予定。

### 国内経済

わが国では、外需の急激な悪化を受け、景気の先行きに悲観的な見方が強まっている。08年10~12月期の実質GDP成長率（1次速報）は前期比3.3%（前期比年率12.7%）と、第1次石油危機直後の1974年1~3月期（年率13.1%）以来の大幅なマイナス成長となった。08年12月の鉱工業生産指数（確報値）は前月比9.8%と、2ヵ月連続で過去最大の低下幅を更新。先行きも1月に前月比9.1%、2月は同4.7%とさらに低下する見通し。設備投資の先行指標となる機械受注（船舶・電力を除く民需）は10~12月期に前期比16.7%の大幅減となった。また、雇用環境の急激な悪化などから消費も低迷している。なお、日銀は08年12月の金融政策決定会合で政策金利を0.1%に引き下げ、その後据え置いている。

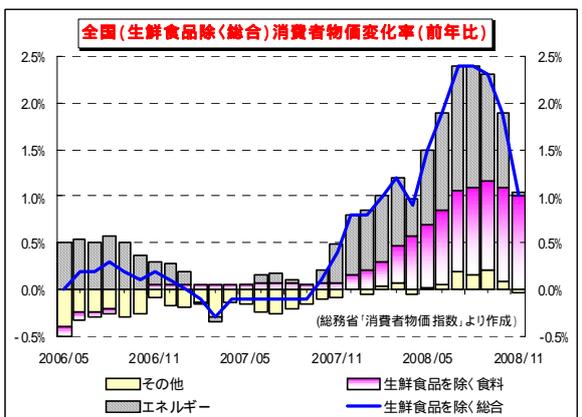
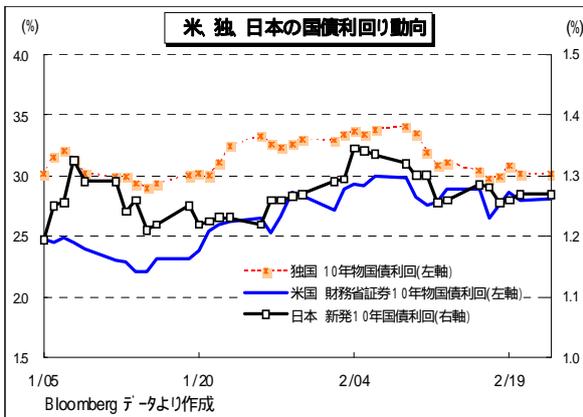
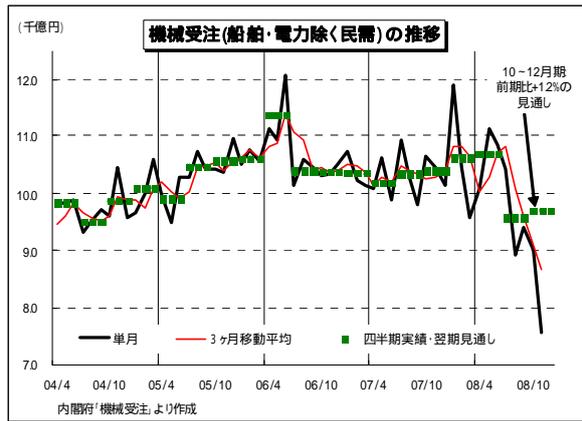
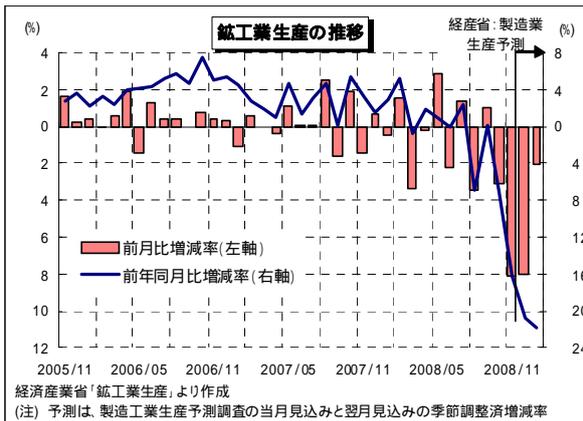
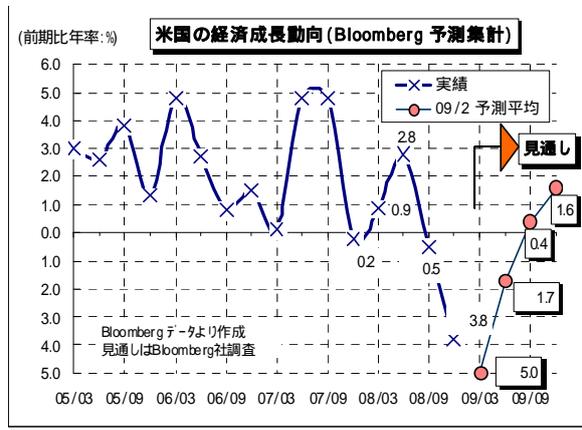
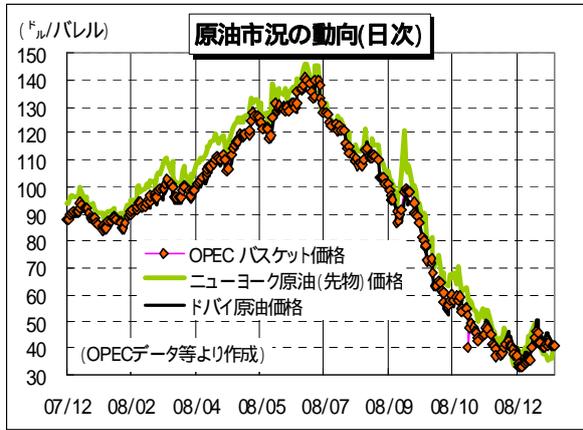
### 金利・株価・為替

外為市場では、米FRBによる追加の金融緩和策に対する思惑（金利差縮小）などから円高ドル安が強まり、ドル円相場は12月下旬に一時87円台前半と95年7月下旬以来の円高水準となった。年明け後は90円をはさんで推移したが、直近では日本経済の大幅な悪化や政局不安のほか、ヘッジファンド等の円買いポジションが解消されたとの観測もあり、一時94円台まで円安・ドル高が進行した。日経平均株価は、米景気対策への期待感から1月上旬に一旦9,200円台まで上昇したものの、企業業績の悪化懸念や円高進行、金融不安の再燃などにより再び下落し、2月19日には7,400円台となった。日本の長期金利の目安である新発10年国債利回りは、「安全資産」への逃避の動きなどを受け12月末に一時1.155%へ低下した後、米国の国債増発による財政悪化懸念などから1.3%台まで上昇したが、直近では1.2%台半ばに小幅低下して推移している。

### 政府・日銀の景況判断

政府は2月の景気判断を「急速な悪化が続いており、厳しい状況にある」とし、前月の「急速に悪化している」から下方修正した。個人消費については「緩やかに減少している」と表現を強め、先行きについても「雇用情勢が急速に悪化しつつあり、所得が弱い動きとなっていることなどから、当面、弱い動きが続く」と懸念を示した。一方、日銀は2月の金融経済月報で「わが国の景気は大幅に悪化している」と景気判断を据え置いた。先行きについても「景気は当面、悪化を続ける可能性が高い」との判断を維持した。（09.2.20 現在）

## 内外の経済金融データ



(詳しくは、ホームページ-トピックス-[今月の経済・金融情勢] <http://www.nochuri.co.jp>へ)